

転職移住 の ススメ Case-2

長野県
須坂市



仕事や住居をパッケージで提供! 都会から地方のサラリーマンへスピード転職

「サラリーマンが移住を考えたとき、ハードルとなるのが職探し」。そう考えた須坂市は、移住に理解のある企業を募り、仕事と住居をパッケージ化した支援「移住支援信州須坂モデル」をスタート。2年で7組の移住が実現し、手応えを感じている。

文/はつき堂 写真/和田庄平

右から、オリオン機械(株)総務部取締役部長の山中義夫さん、Uターンで転職した宮島悠さん、酪農事業本部システム支援グループ長の松岡巧さん。

宮島悠さん(36歳)【仕事】オリオン機械(株)酪農事業本部 牛舎や機器の設計

転職までサポートする サラリーマン移住支援

長野県北東部に位置する須坂市は、県都・長野市と栗の里・小布施町に隣接した、便利で自然豊かなところ。蔵造りの町並みを活用した観光業や、リンゴやブドウをはじめとした果樹栽培のほか、近年では機械・金属工業分野でも躍進を遂げている。

須坂市では、移住希望者をサポートするため2014年に「信州須坂移住支援チーム」を発足。17年6月には仕事のマッチングと住居探し、移住体験ツアーをセットにした「移住支援信州須坂モデル」をスタートした。これは、移住するには転職先を探すことが不可欠なサラリーマンに向けた支援パッケージだ。

「須坂市には400件以上の求人がありますが、県外の人から

すると、求人票だけではローカル企業の社風などがわかりません。また、一般的な求人はずぐに働ける人を求めているのに対し、移住希望者は現在の仕事の引き継ぎや住居探しで、応募から入社まで半年ほどかかってしまうこともあります。そこで、これらの課題解決をサポートすることで、サラリーマンの移住を支援しようと考えました」

こう話すのは、チーム係長の加藤広明さん。

まずは移住希望者の受け入れに協力してくれる市内の企業を



宮島さんが 就職するまで

2018年4月下旬
「銀座NAGANO」での移住相談会に参加。事前にサイトを見て、応募する求人先を決めていた

5月中旬
(株)サンジュニアにて面接。
オリオン機械(株)を紹介される

6月
オリオン機械へ会社訪問

7月
オリオン機械で採用試験。
内定をもらう

9月下旬
引っ越し

10月1日
入社



←須坂市街地には、豪壮な土蔵や大壁造りの商家などの町並みが今も残る(写真提供/須坂市観光協会)。

須坂市

江戸時代に須坂藩の陣屋が置かれ、明治から昭和にかけて製糸のまちとして栄えた。今でも土蔵が建ち並ぶ「蔵のまち」として有名。国指定名勝の米子大瀑布など自然にも恵まれている。東京から関越自動車道、上信越自動車道経由で約2時間40分。